

平成29年度入試の平均点

埼玉県教育委員会から平成29年度埼玉県公立入試の平均点が発表されました。今回の入試では2つの改善点がありました。今回の公立入試では2つの改善点がありました。今回の公立入試では2つの改善点がありました。

①上位校による「学校選択問題」の実施
②理社の試験時間が40分から50分に変更

これらが、今回の入試の平均点にどのような影響を与えたのかを中心にみていきましょう。

【国語】
資料1が5年分の平均点になります。国語は点数の推移を見てわかるように「難化」の傾向にありますが、問題の形式は例年と変わっていません。読解問題の内容が難しくなりました。

【数学】
この数年、平均点が上昇傾向でしたが、今年は平均点が下がっています。問題が難化したのかという点、そうではありません。問題が難化したのかという点、そうではありません。問題が難化したのかという点、そうではありません。

資料2は学校選択問題の平均点です。普通校と学校選択問題の平均点が同じです。普通校と学校選択問題の平均点が同じです。普通校と学校選択問題の平均点が同じです。

資料1：5年間の平均点

科目	2013	2014	2015	2016	2017
国語	65.6	64.0	56.0	57.9	53.5
数学	42.4	45.0	48.1	51.1	44.4
英語	53.7	45.0	55.6	57.4	52.0
理科	63.4	46.1	50.3	39.2	48.5
社会	50.3	49.5	49.1	63.7	60.6

資料3：学校選択問題実施校

実施校	偏差値
浦和	70.9
浦和第一女子	69.5
浦和西	63.4
大宮	70.2
春日部	66.8
川口北	62.3
川越	67.8
川越女子	67.0
川越南	59.5
熊谷	63.8
熊谷女子	63.0
熊谷西	60.3
越ヶ谷	61.4
越谷北	64.4
所沢	59.3
所沢北	63.9
不動岡	64.5
和光国際	61.6
蕨	65.5
市立浦和	67.5

資料2：学校選択問題の平均点

科目	点数
数学	43.2
英語	71.9

【英語】
数学と同様に平均点は上昇傾向でしたが、今年度は下がりました。理由は数学と同様に「学校選択問題」実施校の子たちが含まれていないからです。問題自体は、単語さえわかれば解けるような問題もあり、間違いなく易化傾向です。

しかし、学校選択問題の方は数学と大きく異なる結果になりました。数学に比べて圧倒的に平均点が高かったです。問題自体、長文が長くなったり、英文の形式が難しくなったりしているのですが、それでも上位校を受験する子たちは出ています。これだと、みんなが点数を取れているので差がつかなくなりました。逆に、英語が苦手科目で点数が取れなくなりました。差をつけるには英語は出来た方がいいです。今後、上位校を受験する子には英語は出来た方がいいです。

【理科・社会】
試験時間が50分になり、問題文が長くなり、記述形式の問題が増えたなどありました。平均点には大きな影響はありませんでした。

理科は問題形式よりも、単元による影響の方が大きいようです。毎年、難化↓易化↓難化↓：を繰り返すのですが、今年もほぼその傾向どおりになりました。この順番で行くと、今年度の入試は「難化」になりましたので、きちんと対策をしておく必要があります。

社会は昨年度大きく易化し、今年も平均点60点以上になったので、出題形式の変更はそれほど影響がなかったようです。この数年、5教科の中で一番平均点が高い科目なので、きちんと勉強して得点源にしたい科目です。

《まとめ》
これから夏休みを迎え、受験生は勝負の夏を迎えます。入試の傾向は科目ごとにも様々あります。まずは基礎をきちんと固め、穴をなくすことを目指しましょう。基本的な問題が出来るようになることが大切です。北辰テスなどの過去問など実践的な問題に取り組みます。徹底的に数学の強化を図って下さい。夏を越えても「数学が苦手科目」になる状態だと、非常に厳しい受験を迎えることになるでしょう。